

## Dedicated to Man's Fight against Disease and Pain

### 病気と苦痛に対する人間の闘いのために

当社は、この企業理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製を目指し、挑戦を続けています。

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第72期(2019年4月1日から2020年3月31日まで)につきましては、抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」が腎細胞がん等での使用が拡大した一方で、一昨年11月の薬価見直しの影響や競合品との競争激化により減収しましたが、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」や2型糖尿病治療剤「フォシーガ錠」等の主要新製品が堅調に推移しました。また、オプジーボに係るロイヤルティ収入が増加したことで、売上収益は増収となりました。

利益面については、オプジーボ原薬の安定供給に係る一時的な負担金がなくなったことや、ライセンス料減少に伴う研究開発費の減少および新型コロナウイルス感染症の影響による営業活動の縮小に伴い販売費等が減少したことから増益となりました。

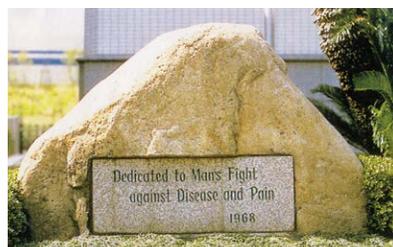
新薬創製の成功確率が年々低下し、研究開発コストが増大するなかで、国内においては医療費を抑制するための種々の薬剤費抑制政策が推し進められており、引き続き厳しい環境が続いています。当社は、研究開発力をさらに高めるとともに、将来の海外事業の拡大に向けて、次のとおり取り組んでいきます。



## 成長戦略

製品価値 最大化	積極的な研究開発活動により、早期の上市および効能追加取得を目指すとともに、上市からピークセールス達成までの期間短縮を図ります。また、製品ライフサイクルのステージごとの環境変化を機敏に捉え、常に競争優位性を担保しうる戦略立案を実現することにより、各製品のポテンシャルを最大限引き出せるよう取り組んでいます。
研究開発体制 の革新	独自の創薬アプローチ「化合物オリエント」をベースに、医療ニーズの高いがんや免疫疾患、中枢神経疾患、スペシャリティ領域を重点領域に捉えて、医療現場に革新をもたらす新薬の創出を目指します。そのために、特定の研究分野で世界をリードする大学や研究機関、バイオベンチャー企業との研究・創薬提携を強化・拡充し、ファーストインクラスが狙える独自性の高いパイプラインの充実を図ります。医療ニーズの高い分野での革新的な化合物の導入や新技術の獲得も積極的に進めています。
海外への挑戦	自社で生み出した新薬、特に抗悪性腫瘍剤などのスペシャリティ製品を世界中に提供できるよう、海外での自社販売を目指して取り組んでいます。すでに、韓国・台湾では、現地法人を設立して自社製品の販売を開始しており、欧米については、今後の自社販売を視野に入れ、開発も含めて体制の整備・強化に努めています。
企業基盤の 強化	持続的に成長し、社会に必要とされる存在であり続けるために企業基盤の強化を図っており、コーポレート・ガバナンスや人材育成、医療アクセスの改善、リスクマネジメント、気候変動への対応など、長期的な視点に立って取り組んでいます。

わたしたちは、病気で苦しんでいる世界中の患者さんに、医療現場のニーズに沿った革新的な新薬を一日も早くお届けできるよう、一丸となって挑戦を続けていきます。株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



1968年(昭和43年)に中央研究所(現在の水無瀬研究所)の建設を記念して建立された石碑。小野薬品の企業理念がここに刻まれています。

代表取締役社長 **相良 暁**